

IV. ベトナム国家大学（ハノイ）人文社会科学大学への教員派遣事業

1、派遣教員、奈良女子大学研修生

派遣教員	水垣源太郎	奈良女子大学文学部准教授
研修生	中塚朋子	奈良女子大学大学院人間文化研究科 研究員
研修生	高柴加奈子	奈良女子大学大学院人間文化研究科 研究員

2、派遣期間

平成 22 年 11 月 21 日（日）～11 月 28 日（日） 8 日間

11 月 21 日（日） 関空—ハノイ空港

11 月 22 日（月） 講義準備

11 月 23 日（火）～26 日（金） 講義、学生交流等

11 月 28 日（日） ハノイ空港—関空

3、事業概要

3-1 講義日程

授業日	講義時間	講義テーマ
11 月 23 日（火）	13：00～14：30 14：45～16：15 16：30～17：15	・「日本の近代化と社会文化変動～人々の暮らしの変化～Hiện đại hóa và những chuyển biến về văn hóa, xã hội Nhật Bản—Những biến đổi trong cuộc sống của người dân—」 ・学生交流
11 月 24 日（水）	13：00～14：30 14：45～16：15 16：30～17：15	・「日本の近代化と社会文化変動～人々の暮らしの変化～Hiện đại hóa và những chuyển biến về văn hóa, xã hội Nhật Bản—Những biến đổi trong cuộc sống của người dân—」
11 月 25 日（木）	13：00～14：30 14：45～16：15 16：30～17：15	・「日本の近代化と社会文化変動～人々の暮らしの変化～Hiện đại hóa và những chuyển biến về văn hóa, xã hội Nhật Bản—Những biến đổi trong cuộc sống của người dân—」 ・レポート
11 月 26 日（金）	13:00～17：15	・学生交流

3-2 講義概要

（文責：水垣源太郎 准教授）

平成 22 年 11 月 21 日（日）～11 月 23 日（日）の日程で、ベトナム社会主義共和国

ハノイ市を訪問し、ベトナム国家大学ハノイ校人文社会科学大学、東洋学部日本学科および社会学部大学院において、日本の近代化過程に関する社会学の講義を行った。

訪問にあたって、東洋学部長 Le Dinh Chinh 教授、社会学部長 Nguyen Thi Kim Hoa 教授、国際交流センター Tran Thuy Anh 教授、東洋学部日本語学科長 Phan Hai Linh 教授には特別のご配慮をいただいた。また講義にあたって、日本学科専任講師の Pham Thi Thu Giang 氏には、資料翻訳および通訳など、きわめて多大な援助を得た。現地の先生方のご厚意に深く感謝する。またアシスタントとして同行していただいた中塚朋子氏、青木加奈子氏には、現地での資料収集や整理、講義資料の作成などの補助をしていただいた。

日本学科における講義は、11月23日(火)～25日(木)の3日間、それぞれ午後、「日本の近代化と社会文化変動～人々の暮らしの変化～Hiện đại hóa và những chuyển biến về văn hóa, xã hội Nhật Bản—Những biến đổi trong cuộc sống của người dân—」と題して行った。受講生は40名。講義は日本語で行い、資料はGiang氏の助力により日越併記で作成した。講義では、明治維新、戦後改革、高度成長の3つの局面における近代社会変動の諸相を説明し、受講者が関心をもつ今日の日本の若者文化がそれらを経た低成長期における価値転換の延長上にあることを、映像や統計図表を用いて論じた。

社会学部大学院における講義は、11月24日(水)午前中に、「日本の近代化と社会生活の変化 Modernization and the change of social life in Japan」と題して行った。参加者は約30名である。日本の近代化論に関するより専門的な内容を日本語で講義し、Giang氏にベトナム語に通訳していただいた。資料は日英併記で作成した。

日本学科における講義の第一日目はまず、アシスタントの中塚朋子氏、青木加奈子氏により奈良女子大学についてご紹介いただき、つづけて自己紹介を行った。次に、講義の概要を紹介し、導入として講師の個人的体験、1970年代から80年代における外遊びからテレビゲームへという遊びの変化について論じた。後半は、映画『三丁目の夕日』を鑑賞した。

第二日は、日本の近代化と社会変動過程を国民国家形成、近代資本主義、近代社会形成の3つの側面から捉え、明治維新、戦後改革、高度成長の3局面を通してそれが達成されていくありさまを説明した。とくに、生活水準の上昇と消費生活の変化、家族形態の変化、人口集中と過疎化、教育と社会階層、少子高齢化の諸側面について、具体例を交えながら説明した。さらに、その帰結として、現在の日本人の意識がおおまかに3つの世代によって異なることを論じた。1960年以前に大人になっていた現在70歳以上の人々、高度経済成長期に少年期、青年期の40代～50代の人々、高度経済成長期に少年期・思春期を迎えた40歳以下の人々である。最後に、受講生たちが大きな関心を寄せている現在の日本の若者文化がこうした背景のもとで形成されてきたことを結論として述べた。

最終日前半は、まず現在の日本の若者文化を多様化、政治的関心の復権、アマチュアリズム(ノンプロ)の3点において特徴づけた。第一の多様化とはみんなが熱中する文化というものがなくなってきていることを、第二は若者が最近政治に関心を持つようになってきたことを、そして第三はプロが作ったものをアレンジして公表する文化が広まっている

ことを指す。このうちとくにアマチュアリズムを取り上げ、ニコニコ動画と VOCALOID、アニメとコスプレ、コミックマーケット、同人誌（同人雑誌）、同人誌即売会、コミックマーケットなどの具体例をマルチメディア資料によって紹介した。最後に日本と欧米におけるマンガ、アニメ文化の異同についても言及した。

後半は、質疑応答を行ったが、学生の関心が高い話題だけに、コスプレをする若者の特徴や日欧におけるマンガ表現の差異、著作権の問題などについて熱い議論が交わされた。最後の1時間を用いて小論文形式の試験を実施して終了した。

試験課題：

「本講義において扱った近代化の諸相もしくは若者文化に関する話題を1つ選び、その概要と背景、問題点について論じなさい。」